

どうしていいますか

地域で異なる祝い方

もうすぐお正月。暮れから家庭や地域で多くの行事があるでしょう。皆さんはどう過ごしていますか。古くから伝わる習慣などについて、市文化財調査委員の阿久津宗二さんにお聞きしました（担当は市民編集委員・三輪、杉山）。

問い合わせは広報広聴課 890 6642へ。

いろいろ変わった習慣も

大みそかに年越しそば、正月におせち料理ともちを食べるといふ家庭が多いでしょう。しかし、市の南部に住む家庭で、正月三が日、もちを食べない習慣の家があると聞きました。そして、調べると前橋市でも、昔は「もちなし正月」の家が決して少なくなかったようです。

こうした、特定の家に古くから伝わる風習を家例、または縁起と言いますが、「もちなし正月」の家例にも、いろいろな違いがあります。

三が日は全くもちを食べない家。正月棚にはそばを供え、家人はもちを食べる家。神棚には供えない「カゲモチ」の家。元日だけ食べず、一日・三日ならもちを食べてもよいという家。

三が日のうち、昼食だけならよいとか、夕食ならよいという家などいろいろ。あなたの家ではどのようにしていますか。

こうした昔から続くききたりも近年ではだいが薄れてきました。最低でも元日の朝だけは、きちんと古くからの家例を守っている家もあるようです。

なぜもちを食べないの？

もちに限らず、ある食物について、期間などを限って食べてはいけないという禁じこを定めた家例があります。これらは、どのような理由があるのでしょうか。

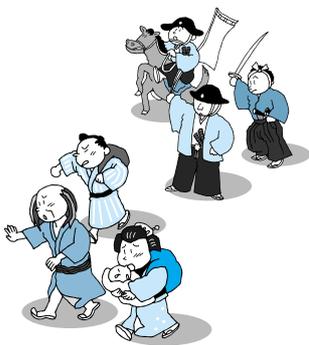
例えば「もちなし正月」とな

つたいわれには、次のようなものがあります。

祖先が戦乱で落ちのびてきたのが年の暮れで、もちをつくことができなかったから、それを代々守っている。また、デキモンができるという言い伝えがあ



だんだん焼きは子どもが楽しみにしている行事（鳥取町）



ると、避けている場合もあるようです。